



平成 23 年 11 月 18 日

各 位

会 社 名 MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
代表者名 取締役社長 江 頭 敏 明
(コード番号：8725 東証・大証・名証各第一部)
問合せ先 経理部課長 堀 江 徳 至
(TEL. 03-6202-5273)
広報・I R 部課長 松 浦 俊 嗣
(TEL. 03-3297-6705)

平成 24 年 3 月期（通期）の連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 5 月 19 日に発表いたしました平成 24 年 3 月期（通期）の連結業績予想について、次のとおり修正いたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期（通期）の連結業績予想の修正（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	37,500 億円	1,160 億円	670 億円
今回修正予想 (B)	39,000 億円	240 億円	60 億円
増 減 額 (B-A)	1,500 億円	△920 億円	△610 億円
増 減 率	4.0%	△79.3%	△91.0%
(ご参考)前期実績	34,049 億円	210 億円	54 億円

2. 業績予想修正の理由

株式相場の低迷等、市場環境の悪化による有価証券評価損（約 450 億円（連結決算固有の処理であるパーチェス法適用に係る調整額約 200 億円を含む。））などにより資産運用に関する損益が当初予想を下回る見通し^(注1)であります。また、タイにおける大規模洪水^(注2)など国内外の自然災害等により発生保険金（正味支払保険金と支払備金繰入額の合計）が増加する見通しであります。これらを主因として、経常利益及び当期純利益を前回発表予想から下方修正するものであります。

(注) 1 主要な子会社である三井住友海上火災保険株式会社及びあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の資産運用に関する損益は、当初予想を約 350 億円下回る見通しであり、連結決算上はパーチェス法適用による調整額を含め、約 500 億円下回る見通しであります。

2 タイの洪水に係る発生保険金につきましては、現場立会による損害確認が困難な中、一定の前提を置き、約 1,300 億円を織り込んでおります。なお、国内の損害保険子会社における異常危険準備金の取崩考慮後の経常利益及び当期純利益への影響額は、それぞれ約△220 億円、約△150 億円であります。

(参考)

三井住友海上火災保険株式会社(単体)の平成24年3月期(通期)の業績予想

	正味収入保険料	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	12,550 億円	610 億円	400 億円
今回修正予想 (B)	12,590 億円	280 億円	180 億円
増減額(B-A)	40 億円	△330 億円	△220 億円
増減率	0.3%	△54.1%	△55.0%
(ご参考)前期実績	12,305 億円	317 億円	228 億円

(注) 正味収入保険料は、三井住友海上火災保険株式会社の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しております。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(単体)の平成24年3月期(通期)の業績予想

	正味収入保険料	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,000 億円	300 億円	200 億円
今回修正予想 (B)	10,840 億円	110 億円	120 億円
増減額(B-A)	△160 億円	△190 億円	△80 億円
増減率	△1.5%	△63.3%	△40.0%
(ご参考)前期実績	10,973 億円	160 億円	△114 億円

(注) 前期実績には、あいおい損害保険株式会社(単体)の前期実績とニッセイ同和損害保険株式会社(単体)の前年上期実績を単純合算した数値を記載しております。

なお、同社を新たに連結の範囲に含めるに当たっては、パーチェス法を適用しておりますが、上記単体業績はパーチェス差額等の調整を行う前の数値となっております。

* 上記業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであるため、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上